

低炭素化の取組推進

日合協・技術委を開催

日本アスファルト合材協会（今泉保彦会長）は18日、東京都中央区のTKPガーデンシティPREMIUM東京駅日本橋で「第1回技術委員会



と「全国技術委員長会議」を開いた。技術委員会では、2025年度の事業計画、予算を承認した。40周年記念論文の審査などについての報告もあった。

冒頭、守安弘周技術委員長は「アスファルト合材製造産業は、激甚化、頻発化する豪雨災害や潜在的な大地震への備えと復旧、社会インフラの老朽化への対応など、国民生活の基盤を根底から支える公益性の高い産業だ。道路舗装は、国民の安全・安心の確保、

わが国の持続的発展に寄与する大切な社会資本であり、アスファルト合材製造業界が果たす役割は非常に大きい」と強調した。

その上で、「技術委員会では品質の向上、循環型社会の充実、環境負荷低減、コスト縮減といった社会の要請に対応する良質なアスファルト合材の安定供給を目指し、調査研究、製造技術の開発などを実施している。特に、カーボンニュートラルに向けたアスファルト合材工場での低炭素化の取り組みを推進する必要がある」と述べた。写真。

全国技術委員長会議では、土木研究所先端材料資源研究センターの新田弘之材料資源研究グループ長が「アスファルト舗装の永続リサイクルに向けて」をテーマに講演した。24年度の技術委員会の活動報告や質疑応答も実施した。

